

日本鐵鋼協會記事

◎第二回定時總會

大正六年三月廿四日(土曜日)午後一時より東京ステーションホテル樓上に開き(當日の議事並に諸報告は本號卷首に掲ぐ)右終て演説あり(次號に掲ぐ)次に宴會を催し會長の挨拶及會員の卓上演説等ありて午後八時散會せり

◎編輯會

大正六年四月十一日(水曜日)午後五時より本會事務所に於て編輯委員會を開き會誌第三年第四號の原稿を撰定せり

當日出席者は

野呂 景義 今泉嘉一郎 俵 國一
川上 義弘 の四氏なり

◎入退會者

前號報告後入退會を承認せられたる會員左の如し

入會者(住所及職業)

東京市芝區白金志田町十三番地	合金製造業	正會員	秋 田 實
陸中國釜石町田中鑛山株式會社釜石鑛山事務所			
北海道室蘭日本製鋼所	同技師	正會員	直 井 武 好
同所員	准會員	岩 崎 覺	
名古屋市南區熱田新宮坂町九二	鐵道院技師	同	松 川 義 造
名古屋市熱田新宮坂町四十六番地			
日本車輜會社員	同	梅 地 潔	
門司市須崎町三丁目羽島政夫内	鐵道院雇	同	重 谷 良 之 助
福岡縣八幡市製鐵所鋼材部	製鐵所員	同	野 本 德 市
同所員	同	木 村 誠	
北海道室蘭輪西製鐵所			

退會者

北海道室蘭輪西製鐵所	輪西製鐵所員	准會員	栗 山 安 兵 衛
同	同	同	增 田 富 起
福岡縣八幡市白川町二丁目	仲立業	同	東亞通商株式會社 八幡出張所
東京市芝區白金三光町四八六山一	汽船合名會社員	同	高 島 三 郎

◎轉居 (新住所左の如し)

神戸市山手通七丁目番外七〇ノ一〇			坂 井 清
朝鮮黃海道兼二浦三菱製鐵所			梅 野 實
大坂市天王寺松ヶ鼻町五四六七ノ八			黑澤 義 之
東京市小石川區林町一九			毛利 要 二 郎
大坂市北區曾根崎町上三丁目			手塚 秀 雄
朝鮮黃海道兼二浦三菱製鐵所			岡 田 豐
東京市日本橋區本革屋町五			田 中 德 五 郎
東京市牛込區市ヶ谷佐内町三六			齋 藤 浩 介
東京市外内藤新宿北裏町一二八ノ三			北 川 正 太 郎
東京市日本橋區濱町三丁目一番地不二商會東京支店內			黑 田 馨
朝鮮黃海道兼二浦三菱製鐵所			内 山 民 次
廣島縣佐伯郡大竹村大倉組山陽製鐵所			平 山 茂

正會員	日本チエイン製 造株式會社	正會員	船 津 守 造
同	木 村 正 夫	同	新 田 起 三
同	上 田 徹	同	小 野 崎 五 助
准會員	今 田 强 造	准會員	伊 部 爲 久
同	河 村 毛 野	同	安 田 敬 之 進
同	河 中 伊 三 郎	同	野 本 新 八
同	下 村 正 道	同	荒 木 田 彦 太 郎
同	衛 藤 徹 彦	同	久 我 秀 雄
同	原 淺 七	同	久 保 金 槌
同	小 山 龜 榎	同	小 島 成 治
同	淺 岡 信 三 郎	同	調 榮 太 郎
同	花 田 宗 三	同	龍 造 寺 隆 邦

臺灣打狗淺野セメント會社
佐賀縣佐賀郡愛敬島村三一
東京府下蒲田村女塚三四七
佐世保氣付軍艦磐手
神戸市中山手通三丁目五ノ六

荒木勉三郎
伊香賀照治
樽林篤夫
新田義雄
小森富作

死亡 正會員 大森文亮氏は大正六年四月四日死去せられたり

誠に哀悼の至なり謹て弔す